

札幌自由が丘学園

特集

三和高等学校が開校されました

北の大地に自由と共同の学校を

和寒町教育特区学校審議会や関係機関との協議を経て、町より高等学校設置認可を受けていた札幌自由が丘学園三和高等学校の開校式及び祝賀会の様子をご紹介します。



◆三和高開校式

4月25日(土)、旧三和小跡地を活用して行うことが決定されていた札幌自由が丘学園三和高等学校の開校式が行われました。

この高校は、教育上で特別な支援が必要な子どもを対象とした学校法人以外の機関による学校の設置・運営を、国の構造改革特区の認可を受けて行う通信制単位の高校です。

同校の特徴は、自然体験科や北海道科といった自然環境を活かした科目が盛り込まれ、特に必修科目となっているカヌー体験では、南丘森林公園や剣淵川での川下りにも挑戦する予定です。また、農業体験やそば作りなど、地域の方々に講師に授業を行うなど、地域の教育資源を有

効に活用した独自のカリキュラムとなつていきます。地域のイベントにも積極的に参加し、都市部と農村部が一体となった教育環境の実現をめざし「北の大地に自由と共同の学校を」を基本理念に掲げています。生徒たちは、3年間の授業の中で計4回(1回4泊5日)のスクーリングで、これらの授業を受けることとなります。

◆校長には亀貝氏(和寒町出身)

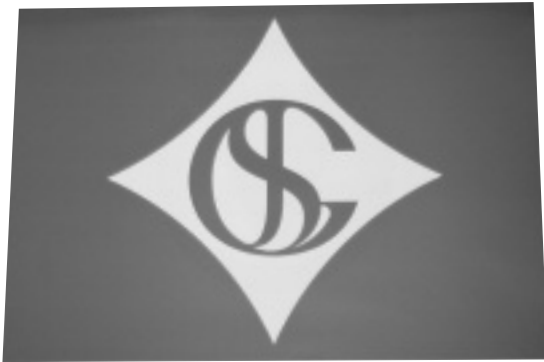
三和高校の初代校長には、和寒町出身であり三和小学校の卒業生でもある亀貝一義氏が校長を務めることとなりました。

亀貝校長は、式辞の中で「いじめ

・非行・自殺・登校拒否など様々な問題があるが、地域の人々とのふれあいを通じて、今の学校(教育)に風穴を開けることができるような新しい学校を作りたい。また、都市と地方の共同による教育を推進したい」と述べられました。

◆三和菊野地区の支援と協力

地域を代表し三和・菊野自治会の会長である大瀬忠勇氏は「都会のような派手さはないが、自然と人情味があり、農産物の恵みの宝庫。自然には偉大な教育力が秘められている。学校の協力支援を惜しまず、地域としても協力していきたい」と期待を述べました。



●三和高等学校の校章

中央のひし形は北海道の大地をイメージし、同校のコンセプトS J Gを組み合わせたもの。

S : Step Up=今一步の挑戦

J : Join Hands=互いに認め合う人間関係そして協同

G : Good Sence=高い感性と知性そして賢明な行動



朗読劇「青い目の人形」を披露する生徒たち

アメリカから友好のために、日本に約1万2千体の人形が贈られました。その後の戦争によって多くの人形が壊されました。しかし、終戦後壊されたはずの人形が各地で約300体発見され、そのうちの1体が旧三和小学校に保管されていました。このエピソードを題材に、生徒たちは、大きな声で朗読し、平和と友情の大切さなどを語りかけてくれました。参加した多くの関係者は、熱心に語りかける生徒たちの声に、耳を傾けていました。

◆生徒代表挨拶では

生徒を代表し3年生の斉藤彰太さんは「この学校で少しでも勉強を好きになりたい。仲間の中には集中するのが苦手な人、話しをするのが苦手な人などいるが、いつでも皆さんと仲良くしたいと思っています」と

挨拶し、今後の授業を楽しみにしているようでした。

◆朗読劇『青い目の人形』

開校式では、生徒たちによる朗読劇が披露されました。

◆開校祝賀会

その後、公民館恵み野ホールに場所を移し、町議会、三和・菊野自治会、教育委員会、和寒町関係者のほか、亀貝校長の同級生らが出席し、盛大に祝賀会が行われました。

札幌自由が丘教育センター代表取締役の杉野建史氏は「どのご協力がなくても開校することがなかった。ただ施設を利用するだけでなく、ただだけ多くの方々と交流し、自然の中に溶け込みながら、地域の皆さんと一緒に活動していただけるかが大切である」と挨拶し、感謝の言葉を述べました。

また、亀貝校長には三和小学校42期生や和寒中学校6期生の有志代表からお祝いや花束が贈られ、新しく生まれ変わった三和高校の開校を喜び合いました。



式辞を述べる亀貝一義校長



祝賀会で乾杯を行う出席者の皆さん

札幌自由が丘学園三和高等学校の詳細についてはホームページでも見ることができます。

ホームページアドレス

<http://www.sapporo-jg.com/>